



3・4 ページの全国豊かな海づくり大会式典行事に参加しました
リーダー職の保育士に下記①～④の質問をお聞きしました。

- ① 全国豊かな海づくり大会終えて
- ② 所属事業所の特徴
- ③ 今後の目標
- ④ 休日の過ごし方／特技



しまの杜こども園
濱口 さおり リーダー



しまの杜保育園
永田 怜 リーダー

① 三重県で41年ぶりに開催する大会に参加するということ
で、「次世代への継承」という意味では、未来の子どもたち
へつなぐことができ、とても誇らしく思いました。子どもたち
も活動の中で、アコヤ貝に触れ、真珠について学んでいる
からこそ、式典への参加は「大切な資源を守る」というメッ
セージを子どもたちにも感じてもらえたのではないかと思
います。しまの杜こども園からいつも見える身近な海が、特
別な海に感じられるようになり、「自分たちが住む場所は、
自慢できるすごい場所なんだ」という気持ちがより強くなり
ました。海がきれいでないと真珠も他の生き物も育つことが
できないという、環境のつながりを今後も保育を通して子
どもたちに伝えていきたいです。

② しまの杜こども園は、幼保連携型認定こども園で0歳児か
ら就学前までのお子様と同じ環境で一貫した保育・教育
を受けることができます。また、放課後児童クラブ、一時保
育事業も展開し、併設されていることにより、卒園後も利用
したり、こども園への入園にもつながり、どちらも慣れ親し
んだ環境で成長を見守っていくことができます。今年度よ
り、保育園留学の取り組みも行い、家族や地域の方々との
新たなつながりと絆を育むことができました。英虞湾を一
望できるすばらしい環境の中、地域の子どもの豊かな
成長に、職員一同温かく丁寧に関わり過ごしています。

③ 日々、子どもたちや保護者の方と関わる中で、人と人とのつ
ながりの大切さを強く感じています。これからも地域に根
差し、こども園に通ってよかったと思っていたけるような
取り組みや活動、そして子どもたちが日々笑顔でわくわく
する楽しい体験ができるようにしていきたいです。

④ 休日の前夜に夜更かしをして、撮りためたドラマ、番組を一
気見します。また、近くの温泉へ行き、日頃の疲れを癒した
りします。インスタで見つけたご飯屋さんやカフェに行くの
も楽しみです。絵本の読み聞かせが好きなので、以前に
当法人が開催する「よみきかせコンテスト」で賞をいただき
ました。今後も、ユーモア溢れる読み聞かせをしていきたい
です。

① 当日はあいにくのお天気で移動など大変な場面もありまし
たが、怪我や事故なく無事終えられて一安心です。参加す
る予もしない子も全員で練習に取り組み、「楽しい」と笑顔
で頑張ってくれ、豊かな海づくりについても子どもたちと話
し合い、志摩の豊かな海の大切さも学びました。天皇皇后
両陛下の前で披露することなど一生に一度あるかどうか
の体験を子どもたちと一緒に共有できた大変貴重な時間
でした。沢山練習してきたこともあり、海女着に身を包んだ
子どもたちは当日の雰囲気のにまれることなく、自信を持っ
て披露してくれました。当日参加するしない関係なく、しま
の杜こども園のつばめ組としまの杜保育園のくじら組みん
なで1つの物を作り上げる経験ができたこと、子どもたちに
とって良い思い出になってくれたらいいなと思います。

② しまの杜保育園は子育て支援センターが隣接しており、子
育てをする地域の方が気軽に利用しやすい雰囲気やクリ
スマス会などの園行事への参加も行っており、地域に根強
い園です。また、少人数を活かし3～5歳児の縦割りでクラ
ブ活動を行っています。体育、音楽、製作の3つに分かれ1
年を通して1つのクラブを最後まで頑張ることや年上への
憧れの気持ち、年下を思いやる気持ちを育んでいます。さ
らに、職員同士の横の繋がりや連携、園全体が穏やかで温
かみのある雰囲気魅力です。

③ 今後も変わらず、保護者の方に安心して預けていただける
ように、子どもたちが毎日楽しく過ごせるよう、自分自身
がまず笑って過ごせる余裕を持つことです。温かい職員間の
チームワークを生かし、協力、連携しながらみんなでしま
の杜保育園の笑顔を大切にしていきたいです。

④ 友だちとお酒を飲んで楽しんだり、お家でまったりドラマ鑑
賞したりして過ごしています。比較的コミュニケーション能
力が高い方なので、共通の話題を見つけ誰とでも仲良く喋
れます。

sensin
洗心福祉会
108
2026.1.1

洗心



心に残る体験を

第44回全国豊かな海づくり大会 天皇皇后両陛下と園児たち

- p2. 午勢駆進（ごせいくしん）
- p3. 第44回全国豊かな海づくり大会 式典行事に参加しました
- p4. 未来へ届け、感謝の舞 園児たちの挑戦と成長の舞台裏
- p5. 洗心フェスタ2025 ～調和とつながりが奏でる笑顔と優しさの輪～
- p6. つながりと調和を育む
- p7. 年末懇親会、笑顔と絆を深めるひとときに
- p8. 今、輝いているあなたにクリック



発行 社会福祉法人 洗心福祉会 広報委員会

〒514-0831 三重県津市本町 26 番 13 号 | 059-222-7700 | <http://www.sensin.or.jp>



午勢駆進（ごせいくしん）

社会福祉法人洗心福祉会

理事長 山田 純大

新年明けましておめでとうございます。ご利用者並びにご家族、職員の皆様にとって、良いお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年 2025 年は、能登半島地震から一年を迎え、被災地では復興への歩みが続く中、私たち一人ひとりが「支え合い」の意味をあらためて見つめ直す年となりました。また、物価高騰やエネルギー問題の影響が続くなか、福祉の現場でも日々の工夫と連携が求められる一年でした。

一方で、2025 年 4 月から 10 月にかけて開催された大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中から多様な知恵と技術が集まりました。持続可能で包摂的な社会の実現に向けた取り組みが紹介され、私たちの目指す共生社会の姿とも重なる多くの示唆を与えてくれました。

また、生成 AI などの新技術が急速に普及し、医療・福祉の分野にも変革の波が押し寄せています。こうした変化の中で、私たちの「人に寄り添う力」や「現場の知恵」が、ますます重要になっていると感じています。

そして昨年、日本の政治においても歴史的な転換点が訪れました。高市早苗氏が日本初の女性内閣総理大臣に就任し、多様性と包摂を重んじる社会への大きな一歩が刻まれました。前例のない道を切り拓くその姿は、性別や立場を超えて、誰もが挑戦できる社会の可能性を私たちに示してくれました。

当法人においても、地域共生社会の実現に向けた取り組みを一步ずつ進め、職員一人ひとりの挑戦やつながりが、確かな成果へとつながっていると感じております。

本年は午年となります。事業運営のテーマとしては「午勢駆進(ごせいくしん)」と掲げました。午(うま)のように力強く前へ進む一方で、決して一人で進むのではなく、一人ひとりの力を活かしながらチームとして変化を恐れず挑戦していく。そんな思いを込めた四文字です。

変化の激しい時代にあって、私たちが目指すべきは、ただ耐えるのではなく、仲間と力を合わせて前へ進むこと。困難を乗り越える原動力は、共に支え合い、共に挑戦する「つながりの力」だと信じています。

本年も、洗心福祉会は地域の皆さまと共に歩み、変化を恐れず、挑戦を楽しみながら、より良い未来を築いてまいります。

結びに、皆さまにとって本年が実り多く、心豊かな一年となりますよう、心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



第 44 回全国豊かな海づくり大会 式典行事に参加しました

昨年 11 月、三重県にて「第 44 回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」が開催されました。この大会は、海や川、湖の恵みに感謝し、水産資源の保護・育成の大切さを全国に発信することを目的とした国民的行事です。「海とともに生きる 豊かな海を 未来へつなぐ」をテーマに、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、式典や稚魚の放流、地域の特色を活かしたさまざまな催しが行われました。海と人とのつながりを見つめ直し、次世代へ豊かな海を引き継ぐ思いが込められた大会となりました。

このたび、当法人が運営する「しまの杜保育園」、姉妹法人の学校法人洗心學舎（理事長 山田純大）が運営する「しまの杜こども園」の園児たちが、天皇皇后両陛下をお迎えして行われた式典の冒頭で、歓迎のダンスを披露するという大変光栄な機会をいただきました。子どもたちは、日々の保育の中で一生懸命に練習を重ね、地域の自然や海の恵みに感謝する気持ちを込めて、元気いっぱいに踊りました。

本番当日は、緊張しながらも堂々とした姿でステージに立ち、両陛下をはじめとする多くの来賓や関係者の皆さまから温かい拍手をいただきました。その姿は、地域の未来を担う子どもたちの希望と可能性を感じさせるものであり、会場全体にやさしく、そして大きな感動を届けてくれました。

この経験を通じて、園児たちは自然と人とのつながりや、ふるさとの豊かさを肌で感じることができました。今後も、地域とともに育ち合う保育・教育を大切にしながら、子どもたちの心に残る体験を積み重ねてまいります。



未来へ届け、感謝の舞 園児たちの挑戦と成長の舞台裏

第44回全国豊かな海づくり大会にて、園児たちが歓迎のダンスを披露するという大役をいただきました。この貴重な機会に向けて、子どもたちは約2か月にわたり、日々の保育の中で練習を重ねてきました。

振り付けには、波のうねりや魚の泳ぎをイメージした動きが取り入れられ、子どもたちは「海ってこんな感じかな？」と想像をふくらませながら、楽しそうに体を動かしていました。最初は恥ずかしがっていた子も、仲間と声をかけ合いながら少しずつ自信をつけ、本番が近づく頃には、全員が笑顔で踊れるようになりました。

また、大会前日には、園児たちが賢島駅にて天皇皇后両陛下をお出迎えするという、たいへん光栄な役目も務めさせていただきました。

練習の合間には、海の生き物や地域の自然について学ぶ時間も設けられました。「海はみんなの宝物なんだね」と話す子どもたちの表情には、感謝と誇りがにじんでいました。

本番当日、緊張しながらも堂々とした姿でステージに立ち、音楽が流れると、これまでの練習の成果を存分に発揮し、両陛下が温かく見守られる中、堂々と踊りました。その姿に、会場からは大きな拍手が送られました。

この経験は、子どもたちにとって自然とのつながりや、仲間と力を合わせる喜びを実感するかけがえのない時間となりました。これからも、地域とともに歩む保育を大切にしながら、子どもたちの心に残る体験を積み重ねてまいります。



洗心フェスタ 2025 ～調和とつながりが奏でる笑顔と優しさの輪～

2025年11月16日(日)、地域総合ケアセンタシルバークア豊寿園にて「洗心フェスタ 2025」が開催されました。本イベントは、社会福祉法人洗心福祉会と M'sfor 様(Estrella.Mie)の協同主催により実現し、当日は秋晴れのもと、地域の皆さまやご家族、子どもたちなど約1,000人が来場。笑顔と温もりに包まれた一日となりました。

洗心福祉会と M'sfor 様は、地域の子どもの健やかな成長と交流の場づくりを目的に、当法人の多目的グラウンドを活用した子ども向けサッカー教室を定期的に開催しています。今回のフェスタはその取り組みの一環になります。

イベントはフットサル体験会や音楽ステージ、ドローン体験、保護犬猫の里親会、ハンドメイドマルシェ、キッチンカー、当法人からは、同敷地内の施設で運営する小森山コーヒーも出店し盛りだくさんのプログラムが展開されました。音楽ステージでは、地元アーティストによる演奏やダンスパフォーマンスが続き、会場は終始にぎやかな雰囲気に包まれました。消防車やパトカーなど“働くクルマ”の展示も大人気で、記念撮影を楽しむご家族の姿が多く見られました。午後には三重県立みえ夢学園高等学校の皆さんと Estrella.Mie によるエキシビションマッチも行われ、スポーツを通じた交流の輪が広がりました。

また、50店舗以上が出店したハンドメイドマルシェ&占い・施術ブースでは、手作り雑貨や癒しのひとときを求めて多くの来場者が足を運びました。移動猫カフェやたいやき、キッチンカーも大好評で、会場にはおいしい香りが立ち込めていました。最後は恒例のお菓子撒き大会で大盛り上がり!子どもたちの歓声が響き渡り、笑顔と優しさに満ちたフェスタの幕が閉じました。

なお、当日は津市長にもご来場いただき、地域福祉や子どもたちの未来への温かいエールを頂戴しました。地域とともに歩む私たちの活動にとって、大きな励みとなるご訪問となりました。

ご来場いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも地域とのつながりを大切に、笑顔あふれる場を育んでまいります。



つながりと調和を育む

当法人では、職員同士の交流とつながりを深めることを目的に「豊和会」を運営しています。職員の皆さんに楽しんでいただけるよう、その年ならではの魅力ある場所を選び、旅行を計画しております。今年度の旅行は、1泊2日バス旅行「静岡県～大井川鐵道・日本平夢テラス～」と日帰りバス旅行の「犬山（愛知県）～国宝犬山城・有楽苑～」現地集合の「志摩（三重県）～志摩観光ホテルでの食事～」を多くの職員が参加できるよう、回数を設けて実施し、350人近くの職員に参加しました。

日頃、福祉の現場で、ご利用者一人ひとりに向き合う職員にとって、職種や拠点を越えて語り合える時間は貴重なものです。旅先では、普段の業務ではなかなか交わることの少ない職員同士が交流し、互いの経験や思いを共有する姿が多く見られました。こうした何気ない対話の積み重ねが、法人全体の連携力やチームワークの向上につながっていると確信しています。

また、豊かな自然や歴史、地域の文化に触れることは、心身のリフレッシュだけでなく、ご利用者支援を行ううえでの視野を広げる機会にもなりました。職員が安心して働き続けられる環境づくりは、結果として、より質の高い福祉サービスの提供へと還元されていくと考えております。

「豊和会」の活動を通して、職員同士がリラックスして笑い合える時間を大切にしていきます。旅先でのちょっとした会話や、ふとこぼれる笑顔が、日々の仕事にもあたたかい力をくれると感じています。



年末懇親会、 笑顔と絆を深めるひとときに

令和7年の師走、法人恒例の年末懇親会が各地区で開催されました。

今年も「伊賀・甲賀地区」「伊勢・志摩地区」「津・松阪・鈴鹿地区」の3会場に職員が集いました。感染対策を引き続き意識しながらも、会場には和やかな空気が流れ、久しぶりに顔を合わせた職員たちの間には自然と笑顔がこぼれ、会話も弾んでいました。

懇親会の冒頭では、理事長による基調講演が行われ、法人のこれまでの歩みや1年を振り返りが語られました。参加者一人ひとりが、日々の業務の意義と、これからの目標を改めて胸に刻む時間となりました。続いて、「年末懇親会 2025」と題したMOVIEが上映され、日々の取り組みや仲間の活躍を映像で共有。会場は温かな拍手に包まれました。

また、長年にわたり法人を支えてくださった職員への永年勤続表彰と感謝状の授与、アトラクションでは法人職員で結成された「洗心楽団」によるバイオリンなどの楽器の演奏により、会場は一気に華やぎました。

恒例の大抽選会も行われ、笑顔と感謝が交差するひとときとなりました。

こうした時間を通して、職員同士のつながりはさらに深まりました。来る年もまた、この絆を礎に、互いに支え合いながら進んでいきたいと思えます。

